

平成22年3月10日発行

[師弟対談] 長谷川穂積×山下正人 / 新王者・内山高志直撃インタビュー

ボクシングマガジン

The Best Magazine for Boxing Fans

3

No.514
MARCH 2010
定価 860円
BASEBALL MAGAZINE SHA

最強王者を支えた絆



デンカオセーン vs. 亀田大毅
WBA世界フライ級タイトルマッチ特報

ニッポンの匠たち
異能ボクサーたちのスペシャルテクニック

V10

特別対談①

長谷川穂積 × 山下正人

真正ジム会長

師弟が語り尽くす
「これまで」と
「これから」



WBA世界スーパーフェザー級新王者

内山高志が語る「その瞬間」

特別対談②

中広大悟 × 大場浩平

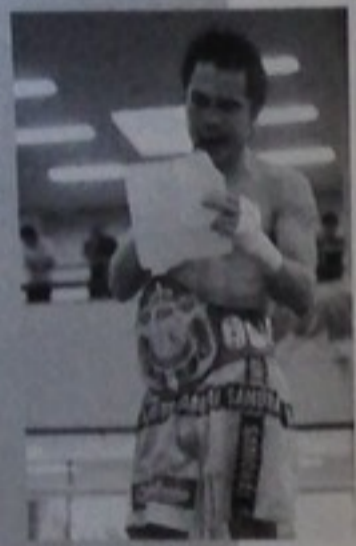
「ローカルヒーローでは終わらない!」



●**故郷は?** 「生まれたのは三重の四日市。でもすぐに父親の出身地・名古屋へ。試合とかでも出身は名古屋になってますけど、本当は四日市出身なんです」

●**大晦日生まれ** 生まれたのは、1979年の大晦日。「いつもクリスマスと誕生日プレゼントとお年玉が一緒でしたね(笑)。まあ、しょうがないんですけど」

●**父・啓造さん** 家族は父・啓造さんと、三つ違いの弟・正和さん。母親が3歳のときに亡くなり、以降、啓造さんが男手一つで二人の男の子を育て上げた。ちょうど父の日に当たったロリー松下(カシミ)戦、タイトル奪取を果たしたリング上では、父親への手紙を読み上げた。「母親と死別した後、男手一つで育ててくれたから今の僕があるし、ボクシングを続けさせてくれた感謝の気持ちを伝えたくて。仕事もやって、家事もやって、実際大変だったし、それは僕も痛いほど分かっていました。そのお礼の気持ちでした。世界一尊敬してます」



●**野球少年** 小・中学校の部活では野球で活躍。「見るより、自分でやる方が好きでしたね。勉強は好きじゃなかったんですが、体を動かすのは大好きで。それが、高校では監督とそりが合わず、野球を断念。「ボクシングにもちょっと興味があって、やろかなあとも思ったんですが、そのときは遊びの誘惑に負けちゃいました。遊びと言っても、あんまり横着な遊びはしてないですよ。みんなとカラオケに行ったり、酒飲んだり、その程度で。タバコとかも一切やらなかったです」

●**ボクシングの道へ** 「ボクシングには興味があったし、強くないんですけどケンカも好きで。忘れもしない20歳のときの4月30日。友人とバーベキューやってたんですけど、ボクシングやってた別の親友から電話がかかってきて「プロテスト受かった!」って。それを聞いたとき、「オレは何やってんだろ」と。遊ぶのは楽しいけど、一方で虚しさも感じて。自分の今の人生と、毎日トレーニングしてプロになったその友人の人生と比べて、どっちがカッコいいんだろと考えて…で、次の日にHEIWAジムに入門しました」

●**1勝2敗3分** デビュー戦は2回KO負け。2戦目は逆に2回KO勝ちしたが、その後の4試合は1敗3分分け。「1勝2敗3分分けのスタートですからね。最悪です。正直、才能ねえのかなとも思ったし、辞めようかとも。けど、試合に負けるより、簡単に夢をあきらめて辞めてしまうことが本当の負けだと思ったので、辞めなかった。デビューして6戦の戦績が1勝2敗3分分けのチャンピオンなんていないでしょう? それもそうなんです。これまで8戦してチャンピオンというのもそうじゃないですか。それもこれも、大橋選手の「あきらめない気持ち」の成せる業だ。「最近の若いもんはすぐにあきらめるというか、ちょっと根性ないというか、あきらめが早過ぎますよ」

●**クマントーン・チューワッタナ戦** タイの元・東洋太平洋パンタム級王者の実力者クマントーンとは2試合を戦った。「最初の試合(2007年4月)では、相手はパンチあるし、足使ってポイントアウトしようとして結果は判定負け。で、試合が終わって考えたのが、こちらは立場的に挑戦者なんだから、ポイントアウトなんて考えてたら勝てるわけない。チャレンジャーなんだから、例しにいて、それで逆に倒されて負けた方がよっぽど良かったな。責める気持ちが大事だと、それに気づいた試合で



OPBF東洋太平洋スーパーバンタム級チャンピオン

大橋弘政

[HEIWA]

おはしひろまさ◎1979年12月31日生まれ。三重県四日市市で誕生し、愛知県名古屋市で育つ。身長166cmの右ボクサーファイター。同朋大学在学中の2000年にボクシングジムHEIWAに入門し、同年11月にプロデビュー。デビュー6戦目まで1勝2敗3分。23戦目までに8戦を喫したが、24戦目から破竹のKO連勝を走り出し、08年9月、元OPBF東洋太平洋パンタム級チャンピオンの実力者、クマントーン・チューワッタナ(タイ)との再戦では4回KO勝ちし、前戦の雪辱。そして昨年6月にタイトル初挑戦。世界王者の実績もあるOPBF東洋太平洋スーパーバンタム級チャンピオンのロリー松下(カシミ)に、圧倒的不敗の予想を覆して逆転KO勝ちして王座奪取を果たした。戦績は1勝21勝(15KO) 8敗3分=2月15日現在。ここまで9連続KO勝利を飾っており、今年3月の初防衛戦が予定されている。

取材と構成 根本晃一[本誌] 写真 早浪章弘&小河原友信(試合)

した。以後、9連続KO勝利。翌年の再戦では4回KOで雪辱した。●**タイトル奪取!** 昨年6月、初めてのタイトル挑戦。下馬評は圧倒的にチャンピオンのロリー松下有利だったが、「そりゃー、実績からしても東洋太平洋で2階級制覇してるし、世界挑戦もしてるし。ただ、こっちはチャレンジャーでしたから気持ちは楽でした。でも、どんな形でも勝ってタイトル獲るんだという気持ちは凄く強かったです」。しかし、初回にロリーの強打を浴びた大橋は右目眼底骨折という大きなハンディを背負ってしまった。「正直、(気持ちが)折れそうに何度もなりま



した。でも、応援の声に励まされて…。こんなにたくさんの方が応援してくれているのに、簡単に倒れるわけにはいかない。何度も倒れたかったですけど(笑)。自分でも奮起させたいと思ってます。勝利の瞬間は? 「もう真っ白になりました。言葉では言い表せない気持ちで…」

●**打撃戦** チャンピオンとしての初戦は尾島芳生選手(明石)選手との再戦で、大打撃戦の末に8回TKO勝ち。王者として打たせないで勝つという試合も期待していたが…? 「そのとおりでございます(笑)。チャンピオンらしくない試合で(笑)。打たせずに打つ、それができればいいんですけど」

●**世界戦決定!** 今年1月11日に行なわれたブーンサワット・クラティンデーンジム(タイ)と細野悟選手(大橋)の試合が決まったとき、なぜか「ブーンサワット対オオハシ戦決定」という性情報がインターネット上に…。「友人からの電話で知って、エーッ! です。僕はもちろん陣営も知らない、しかも直近で、エーッ、1月?」

●**敗戦も糧** ここまで8戦しているが…。「敗戦のすべての経験がローリー戦につながっているという

か。三枝(健二=新聞)選手との試合(06年10月=6回TKO負け)でも目の下が折れたんですけど、それがあったからローリー戦でも冷静に対処できたし。あと、ランキング入りした坪内(建設=大阪帝拳)選手との試合(07年9月=10回TKO勝ち)も大きかった。あれも僕には転機になりました。向こうにとっては最後の引退試合。勝って終わりたいでしょうし、でも僕にとってもランキングを手に入れる大事な試合。そのお互いの気持ちの衝突だったと思うんです。その試合に勝ったというのは大きかった」

●**[SAMURAI]** トランクスには「SAMURAI」の文字が…。「あれ、僕の友人が経営しているバーの名前なんです。その店のドアにある名前と全く同じロゴを、「侍魂」という意味も込めてトランクスに縫いつけてます」

●**加藤功一トレーナー** 3年前前からコンビを組んでいる加藤トレーナーとは「一心同体」とも言われている。「全面的に信頼を寄せてます。クマントーンとの第1戦から付いてもらってるんですが、それも僕にとって転機になったと思います。加藤さんはボクシングに対して研究熱心で、もの凄く数のビデオを見て、いろんな選手のいいところを探り入れて。それに僕のいいところを伸ばして、悪いところを修正してくれる。一方的な押しつけじゃなくて、しっかり話も聞いてくれますし。素晴らしいトレーナー、なくてはならない人です」

●**新婚** 婚約していた竹内彩恵(さえ)さんと昨年結婚。「去年の10月10日に入籍しました。結婚して…自分の中で何かが変わったというのはあまりないですね。これは付き合う前から彼女に伝えてたことなんですけど、今のオレにとってはボクシングが第一だから、ボクシングの邪魔だけはしないでくれと。ただ、ほんと前向きな女性なんで、それは助かってます。どうしても試合前とかネガティブになってしまうんですけど、そんなときに前向きに持っていかけてくれる

ので、凄く感謝してます。披露宴? しばらくは無理ですね。でも準備に気をとられるとボクシングがおろそかになる恐れがある。それに、試合後だと僕の顔がどうなってるかわからないです(笑)」

●**営業マン** 「仕事はKIRINの子会社のキリンマーチャングイジング(株)で、ルート営業です。お店に行きまして新商品を案内したり、一緒に飾りつけしたり。もう6年目です。基本は月一金の勤務で、直行直帰なので、朝走って、軽く練習して9時から仕事。有休も取れますし、ボクシングにも理解があるので、ほんとありがたいです」

●**寂しがりや** 結婚前は夜に一人で食事することはなかったか。「僕、けっこう寂しがりやなんです。こう見えても(笑)。一人であるのが好きじゃない。応援してくれている方たちと会って…というのもあったんですけど、寂しがりやなので(笑)」

●**没頭する男** 「昔から、一つのことにのめり込むというか、没頭してしまう性格。ボクシングならボクシングしか見えないというか、見ないというか。広く浅くというのは正反対で、一つのことをとことん深く突き詰めていくタイプです」

●**マリンスポーツ** ボクシング以外の趣味は、意外やマリンスポーツ。「期間限定なんですけど、夏、マリジェットやウェイクボードに乗ってます。船舶免許を取ったのは地元が一番早かった。きっかけ? 女の子が寄ってくるかなあというヨコシマな考えで(笑)。でも全然モチなかったから、関係なかったですね(笑)」

●**ライバル** 「ライバルとはちょっと違うかもしれないんですが、大場浩平ですか。仲はいいんですけど、ある意味、ライバルかも。スーパーバンタムには上げてこないでねって言ってます(笑)。あのスピード、身体能力は凄いですよ。どこから飛んでくるかわからないパンチとディフェンステクニックも凄いです。それに謙虚なところも。同じ中部だし、一緒に盛り上げたいと思ってます」

●**マニア** 知る人ぞ知るボクシングマニア。テレビ、雑誌など食欲にチェックしている。「他の選手のいいところは探り入れたいというのがあって。自分が強くなるためにはなんでもしてやろうと。見ることも勉強だと思います。好きな選手ですか? 全盛期の(マルコ・アントニオ・)パレラは好きでしたね。(マニー・)パキヤオ? 好きですけど、凄過ぎると言ってしまうかも…。真似できないじゃないですか、8階級制覇なんて」

●**課題** 「やっぱり(パンチを)もらわないこと、ですかね(笑)。足が使えてないんじゃないですかねえ。とにかく練習するだけ。頑張ります」

●**30歳** 昨年の大晦日で30歳に。「そうですね、30です。ただ自分が中学や高校のときに、30歳のオレってこんな感じだろうなって思っていた自分とは違いましたね。良い意味で言えば若いし、悪い意味で言ったら頭悪いって言うか(笑)。体力の衰えは感じてません。もちろん、気持ちも」

●**これから** 3月に下田昭文選手(帝拳)を相手に初防衛戦が組まれているが…。「とりあえずその試合が大事ですが…まだ言えるレベルでは全然ないですが、目標は世界です。今のボクシングだったら、万に一つも獲れないですけど。そのためには、日々精進です」

●**ボクシングとは…** 「僕にとってはすべてですね。自分で言うのもなんですけど、ボクシングやってなかったら、こんなカッコいい自分にはなれてなかったと思うし。ボクシングは自分のすべてを変えてくれました。たくさんの人と出会うことができたし、ボクシング技術とかじゃなしに、人間として成長させてくれました。心から感謝してます」



解 体 新 書

その「素顔」に、さまざまなキーワードで多角的アプローチ!